

学校教員が行う災害業務の理想的体系化の提案

東京工業大学 学生会員 橋本 佳代子
 東京工業大学 正会員 大町 達夫
 東京工業大学 正会員 井上 修作

1. はじめに

災害に強い社会を作るためには全ての人に防災教育が必要と考えるが、本研究では特に学校教員に注目した。理由のひとつとして、学校教員は生徒に対して防災教育を行う立場にあり、教える側が教えるべき内容を正確に理解していない限り生徒に対して正しい防災教育を行うことはできない事が挙げられる。また、災害が発生したら自分だけでなく生徒の安全も確保しなくてはならないし、学校が避難所として開放され地域の拠点としての役割を求められる場合もある。そういう意味で学校教員のための防災教育は特に重要と考える。

防災教育として何を教えるべきかを考えたとき、現状における問題点として「決定的にイメージ力が弱い」と指摘されている¹⁾。まず災害が起こったら自分たちがどのような状況になるのか正しく知る事が重要であり、これなしで防災計画など具体的な対策をたてても、災害時をイメージできなければ対策の良し悪しさえ判断できず、机上の空論となる可能性が高い。

そこで本研究では、災害時に学校教員が行う可能性の高い業務について、業務の流れを理解しやすい理想的な業務体系化像を提案する。

2. 理想的な業務体系化像

橋本ほか²⁾では、災害時に学校が行う可能性のある業務の抽出を試みている(表-1)。避難所支援に関しては、表-2のように独立して図式化された(表-2)。しかし抽出された業務(表-1, 表-2)を見ても個々の業務の繋がりが分かりにくく、これだけで学校業務を理解することは難しい。

災害をイメージするためには、全体像の理解と個々のつながりの理解が不可欠である。そこで表-1, 表-2の業務をさらに実用的に表すために、図-1のような体系化を提案する。時間的経過や個々の業務の繋がり、業務を行う要因となる出来事などを表示することで、学校教員は自分たちが今行うべき業務を的確に知る事ができると考える。例えば進路指導という業務は、地震発生時期が就職活動や受験の時期

表-1 災害時の学校業務の全体像

大項目	個別業務
児童生徒の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> •生徒の避難誘導 •保護者連絡・引渡し •救護・安全点検・消火 •救急
体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> •動員 •本部設置
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> •安否確認(生徒・保護者・教員) •被災状況確認(校内・校外) •個々の業務に要する時間 •重要な行事や期限 •他機関からの指示や要請 •2次的問題(プライバシーの侵害など) •必要とされる業務一覧
教育関連業務	<ul style="list-style-type: none"> •臨時休校措置、臨時全校集会 •進路指導 •教材、学用品などの調達 •学校給食の再開 •安全教育 •臨時時間割編成 •臨時学級の編成 •実技主体の授業計画 •学力補充・授業数補充を考慮した授業計画
保健衛生	<ul style="list-style-type: none"> •健康診断 •心のケア •栄養管理指導 •学校の環境衛生の確保
施設・設備の復旧	<ul style="list-style-type: none"> •活動再開のための応急処置 •清掃 •利用調整 •被害を受けた建物の修理 •被害を受けていない建物の補強
事務関連業務	<ul style="list-style-type: none"> •転入手続き •補助金手続き •災害記録 •宿直 •教職員の確保
避難所支援	

キーワード イメージ力, 学校教員, 災害時の学校業務, 体系化

連絡先 〒226-8502 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259 G3-2 東京工業大学 大町研究室 TEL 045-924-5605

表-2 避難所運營業務の全体像

総務・情報	避難者援護		給食・物資	救護・衛生
<ul style="list-style-type: none"> ・避難所運営本部設置 ・情報収集、整理、管理、提供 ・避難者名簿の整理、管理 ・災害対策本部との連絡 ・避難所運営会議への支援 ・情報掲示板、案内受付の設置 	生活環境の整備	避難者・運営応援者対応	<ul style="list-style-type: none"> ・備蓄物資の管理・支給 ・救援物資の受け入れ、整理、管理、配給 ・炊き出し 	<ul style="list-style-type: none"> ・応急手当 ・医療救護所設置 ・仮設トイレの確保・設置 ・トイレ、ごみ集積場等の清掃、衛生管理の支援
	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の安全点検、応急対策 ・スペースの配分 ・生活ルール作成 ・避難民過多への対応 ・プライバシー保護 ・避難所の設備増強 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難者の誘導 ・被災者相談所設置 ・電話・郵便物の取次ぎ ・ボランティア指導 ・自主防災組織設置 		

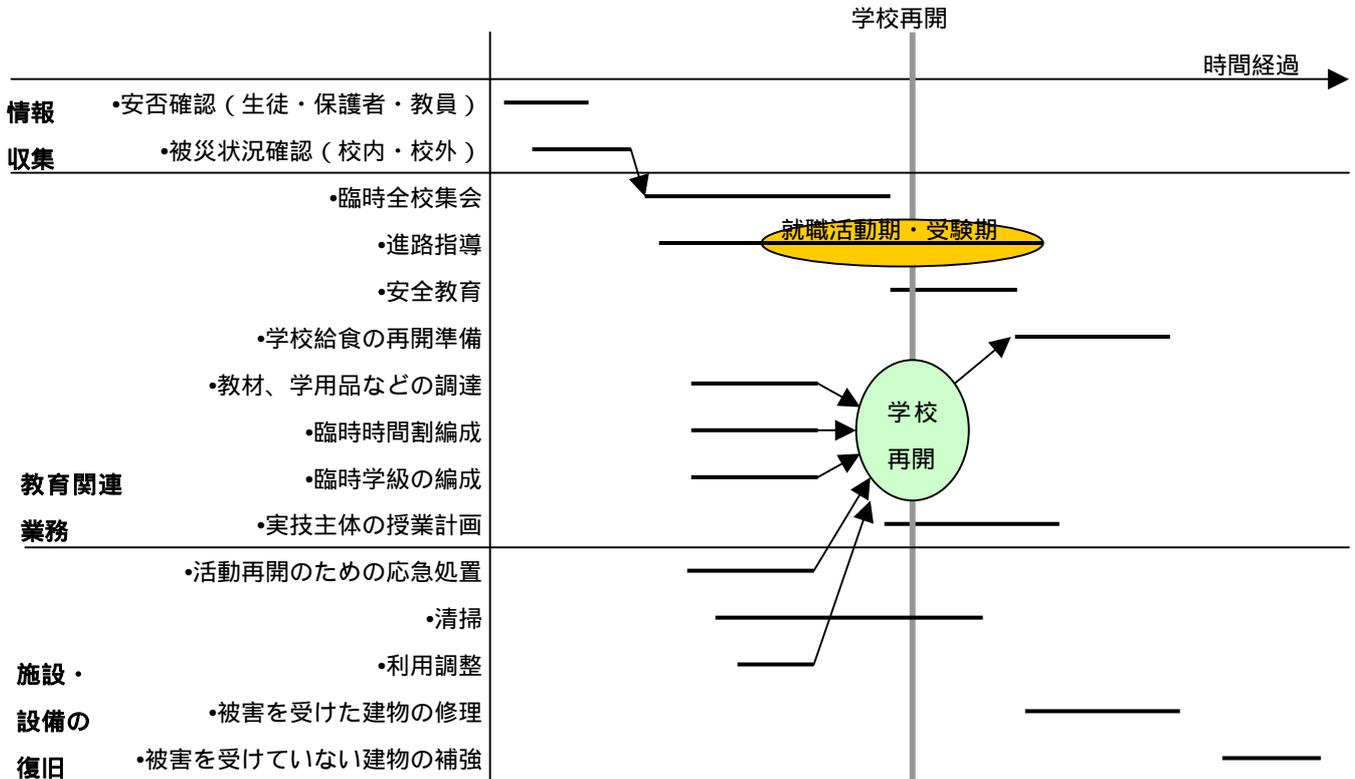


図-1 理想的な業務体系化像

に重なれば早急に行うべき業務であるが、災害の時期によっては急ぐ必要のない業務でもある。また、教材・学用品の調達，臨時時間割編成，臨時学級の編成，施設設備の応急処置，利用調整などがされなければ，学校を再開することはできない。このように個々の業務の持つ因果関係を時間軸に加えることで，なすべき業務を的確に選択できると共に，その業務が全体の中のどのような位置を占めているかも認識できると考える。

4. まとめ

本研究では，災害時に学校教員が自分のなすべき業務をすばやく選択でき，全体的業務の中のどんな位置を占めるのかすばやく知る事ができるような理想的な業務の体系化像を提案した。既存の資料のみではこの体系化を行うには情報が足りないが，今後そこを实地調査により埋めていきたいと考えている。

参考文献

- 1)重川希志依：地域安全学会，防災のための人材育成システム構築のための特別委員会，行政分科会からの報告より
- 2)橋本佳代子・大町達夫・井上修作：災害時に学校教員が行う業務内容の枠組み作り，第28回 地震工学研究発表会，土木学会地震工学論文集（投稿中），2005